

# 令和6年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 小森江 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

| 教科に関する調査（国語、算数）                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------|
| ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 |
| ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容                |

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問調査

| 児童質問調査                         |
|--------------------------------|
| ○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

| 本年度の結果 | 国語    |       | 算数    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|
|        | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市     | 9.3   | 66    | 9.6   | 60    |
| 全国     | 9.5   | 68    | 10.1  | 63    |

## (2) 本校の学力調査結果の分析

|    |             |                                                                       |
|----|-------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | ・目的や意図に応じて話題を決め、伝え合う内容を検討することができている。<br>・特に「書くこと」においては、表現力に課題がみられる。   |
|    | よくできた問題     | ・目的や意図に応じて話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題。                           |
|    | 努力が必要な問題    | ・事実と感想・意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題。<br>・漢字を文の中で正しく使う問題。     |
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | ・図形の概念について理解することができている。<br>・特に「データの活用」領域に課題がみられる。                     |
|    | よくできた問題     | ・直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかをみる問題。<br>・五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する問題。 |
|    | 努力が必要な問題    | ・立方体の体積の求め方を式に表す問題。<br>・速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題。          |

## 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

| 質問調査の結果分析                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①「自分で学び方を考え、工夫しているか」との問いに対して肯定的な回答をした児童の割合が低かった。</p> <p>②「自分には良いところがあると思うか」との問いに対して肯定的な回答をした児童の割合は低かったが、一方で「人の役に立つ人間になりたいか」との問いには、100%の児童が肯定的な回答をしている。</p> <p>①について、12月に取った児童アンケートでは、肯定的な回答をした児童が大幅に増えた(50%→86%)。「問い、選択・調整、挑戦」を授業づくりの柱とした自己調整型や複線型の学びなど、主体的、個別最適に学ぶことを実践してきた成果と考えられる。</p> <p>②についても、「自分にはよいところがある」と肯定的な回答をした児童が増加した(56%→71%)。異学年交流により仲間との良好な関係性を築いたり、探求的な学習を進める中で自己実現欲求を高めたりするなど、自己肯定感を高める取組を行ってきた成果と考えられる。</p> |

## 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組

- ・学びの転換を図り、学びへの動機付け、学び方を学ぶことなどを重視した学習デザイン。
- ・主体的に学ぶ子どもを育てる柔軟な教育課程実現のための新しい視点からのカリキュラムマネジメント。

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・年3回「生活アンケート」を実施し、個別面談、学級指導を行う。また、保護者とも連携し、基本的な生活習慣の定着・改善を図る。
- ・探求的な学びを充実させる学びのシームレス化(学校での学びと家庭での学びの連動)。
- ・GIGA端末及びデータの利活用の推進。